

次の文章A・Bは、塩野米松「木の教え」よりそれぞれ抜粋したものです。文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

A

人はさまざまなことを経験し、失敗を重ねて大人になっていきます。そうして大人になっても、まだまだ知らないことばかりです。職人たちは自分が一歩進めば、その分だけ疑問が見え、自分の「みじゆくさ」がわかるといいます。人は死ぬまでさまざまなことを学んでいきます。学ぶことの基本は驚きです。

①驚きは新しい知識につながるのです。

同じように哀しみも知識の元です。人は「せいこう」からだけ学ぶのではありません。むしろ失敗からこそ学ぶことが多いのです。人は人からさまざまな知識や生き方を教わりますが、社会や自然や生きものとのつきあいから学ぶことも多いのです。

そうやって手に入れた知識のなかには、お祖父さん、お父さん、私たち、私たちの子供、まごへと何世代も伝わっていくうちに、より磨かれ輝くものもあれば、②時間のヤスリに負けてすり減って消えていくものもあります。

また新しく生まれたり、発見された知識が古い知識の上に積み重なって、前の知識を覆い隠してしまうこともあります。

でも新しく見える知識がすべて正しいわけではありません。新しい知識にも勘違いがありますし、新しい知識を頼りに進んでいったら迷路に迷い込むこともあるのです。必要がないとして忘れられた古い知識が時間を

④経てから見直されることもあります。だから人は I  
この本では、木を相手に仕事をしてきた人たちが、たずね歩き、その方々から教えていただいた話を集めました。

③木は人に似ています。一本一本が異なる個性を持っています。木を扱う

人たちはそれを癖と呼んでじょうずに扱ってきました。④木の一生は人間社会で生きぬく私たちの姿に似ています。環境がよければ速く太り、大きくなりますが、厳しい⑥じょうけんを生きぬいてきたものにはかなわないところがあります。

かつては日本人にとって木は身近なもので、私たちはそこからたくさんのかを感じ、学び取ってきました。木とつきあってきた人たちが持っていた知恵から学ぶこともたくさんありました。しかし、現代人の目には森や山の仕事が見えにくくなっています。それを扱っていた職人の姿も消えました。昔なら、それらの人たちの話を教訓として直接聞くことができましたが、いまはそうしたチャンスは失われてしまったのです。

現代人は科学という新しい知識を手に入れ、⑤効率第一主義の道を選んでしまいました。一本一本、個性のある木を、まったく同一のものとして扱うことを選択したのです。そして強い個性を持ったものは効率を高めるために、障害物として排除されるようになりました。

この考え方は人間に対しても用いられ、社会は人々をみんな同じ性格、同じ素質のものとして扱おうとしています。そのほうが管理しやすく、効率がいいからです。こうした現代だからこそ、木とつきあってきた人たちが持っていた知恵、自然とのつきあい方を振り返ってみることが大事な気がします。⑥それらは私たちが置き忘れてきた大切なことを教えてくれる

はずです。

B

宮大工の口伝にもありましたが、大工たちは木をかうさい、山にその木がどんなふうに見えるかを見に行きました。川の舟をつくる大工も同じように、自分で山の木を見に行つて、木の生えている場所や生育を見て買います。舟大工さんに、

「木を選ぶときに気をつけることは？」  
と聞きましたら、

「注意することは、⑦丘の上の一本木は買わないことだ」といわれました。

丘の上に一本だけ生えている木は、邪魔するものがないから自由に育ちます。山の木や林の木は、まわりに日光を遮る敵がいます。植物は自分では動けませんから、同じ場所でもわりの木よりもたくさんの日の光を受けようとすると、速く大きく枝を伸ばすしかありません。⑧その競争は激しく、枝は交錯し、⑦ふくぎつに入り組んでいます。競争に負けた枝は葉が落ち、しまいには枝そのものも枯れ、落ちてしまします。

ところが丘の上の一本の木は、邪魔者がいないから精一杯好きなように枝を伸ばした、すばらしい姿をしています。写真を撮りたくなったり、絵に描きたいと思うのはこんな木です。

しかし、舟大工はこんな木は買いません。素直で、いい材質に育つていそうなものですが、そうではないのです。

一本の木は日の光をたっぷり独り占めできるかわりに、たった一本で風

に立ち向かわなければなりません。激しい風にさらされた木の枝は風に押されます。幹はそれに耐えようと、力を入れます。長い間にそれは木の癖になります。そして風の強いところでは幹にひずみが出て、材にしたときに、ねじれや割れの原因になるのです。自由にのびのび育つたように見える一本木は、そんなわけで⑩敬遠されます。

しかし、ずっと話してきましたように、木の癖を生かすのは大工の仕事です。またほかにも自然の素材を使う職人は、みんな⑨素材の癖を見ぬぎ、それを生かすようにしますし、違った性質のものを組み合わせ、よりよいものをつくっています。

癖を見ぬぎ、適切に使うことを「⑩適□適□」といいます。これは使う側の⑪みがつてな考えではなく、そこに使うことで、使われたものも得をするやり方です。こうした工夫がなされると、できたものは丈夫で長持ちし、美しく見えるものです。

⑫せつかく材になった木ですから、使いきりたい。使いきるといのが自然の素材を扱う人たちの基本的な心構えです。それが、いつのころからか、速く、たくさんつくることが安くものを売ることにつながり、丈夫に、癖を生かすという考えを隅に追いやっていきました。

癖を生かす工夫より、癖のない⑬均一な素材として、⑭しよりするほうが、ずっと大量に、速く生産できたからです。この考えは日常生活の品から家に⑮至るまで、生活全般に広がりました。生きた素材を、工場から出てくるブロックや鉄と同じものと考えたことにはしたのです。個性や癖を⑯むしした、「適□適□」とはまったく反対の考え方です。この考え方の基礎には、

⑩癖を生かして長持ちさせるよりは、速くたくさんつくることで安い値段を

つける、壊れたら買い換えるといふ使い捨ての考えがあります。

(『木の教え』 塩野米松 筑摩書房)

一、 1～10のひらがなは漢字に、漢字はひらがなに直

しなさい。(送りがなも書くこと)

- |   |      |    |       |
|---|------|----|-------|
| 1 | みじゆく | 6  | じょうけん |
| 2 | せいこう | 7  | ふくぎつ  |
| 3 | まご   | 8  | みがって  |
| 4 | 経る   | 9  | しより   |
| 5 | たずねる | 10 | むし    |

二、 ア・イ・ウの意味を書きなさい。

- ア 個性  
イ 敬遠  
ウ 均一

三、 a・bのことばを使って短文を書きなさい。(主語を必ずい  
れること)

- a せつかく  
b 至るまで

四、次の問いに答えなさい。

問1 ——— ①「驚きは新しい知識につながるのです」とはどういうことか、最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 新しい知識が次なる疑問へとつながり、そうした気づきの連続が学ぶという行為を支えているということ。

イ 新しい知識の正確さが、次なる学びへの意欲となり、人々を学びに向かわせるということ。

ウ 新しい知識はその時代に生きる人々を感動させ、その達成感が学びへの意欲を生み出すということ。

エ 新しい知識が学びの繰り返しによって積み重なり、その結果想像を超えるような発見につながるということ。

問2 ——— ②「時間のヤスリに負けてすり減って消えていく」とありますが、何が、どのようなことになることか、説明しなさい。

問3 I にあてはまる表現として、最も適切なものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 勉強を重ね、最新の知識を学び続けるのです。  
イ 自然を見つめ、あるがまま受け入れるのです。

ウ 信念を持ち、自分の正しさを信じるのです。  
エ 歴史を学び、年寄りたちの話を聞くのです。

問4 ——— ③「木は人に似ています。一本一本が異なる個性を持っています。木を扱う人たちはそれを癖と呼んでじょうずに扱ってきました」とありますが、現代では「癖」のある木はどのように扱われていると筆者は述べていますか。

問5 ——— ④「木の一生は人間社会で生きぬく私たちの姿に似ています」とありますが、人間のどのような点が「木の一生」に似ているか、説明しなさい。

問6 ——— ⑤「効率第一主義」に基づくものには○、そうでないものには×を、次の1～5にそれぞれつけなさい。

- 1 木材製品生産業の機械化
- 2 職人による伝統工芸の伝達
- 3 自然林を開拓し行われる植林
- 4 寺院や神社などの建築様式
- 5 大量生産・大量消費の社会

問7 ——— ⑥「それら」の指すものを答えなさい。

問8 ——— ⑦「丘の上の一本木は買わない」のはなぜか、説明しなさい。

問9 ——— ⑧「その競争」とはどのような「競争」か、説明しなさい。

問10 ——— ⑨「素材の癖を見ぬき、それを生かす」工夫をすることの利点を、筆者はどのように説明しているか、文中のことばを使って答えなさい。

問11 ——— ⑩「適□適□」とあるが、次の空欄に適切な語を当てはめて、四字熟語を完成させなさい。

問12 ——— ⑪「癖を生かして長持ちさせるよりは、速くたくさんつくることで安い値段をつける、壊れたら買い換える」という現代の考え方に賛成か反対か、立場を明らかにしながらあなたの意見とその理由を八〇字前後で答えなさい。(七〇字以上書くこと)

四			三		二		一	
問 3	問 2	問 1	b 至るまで	a せつかく	ウ 均一	ア 個性	6 じょうけん	1 みじゆく
							7 ふくぎつ	2 せいこう
						イ 敬遠	8 みがって	3 まご
							9 しより	4 経る
							10 むし	5 たずねる



1	みじゆく 未熟	2	せいこう 成功	3	まご 孫	4	経る へる	5	たずねる 訪ねる
6	じょうけん 条件	7	ふくざつ 複雑	8	みがって 身勝手	9	しより 処理	10	むし 無視

ア	個性 個々の人または個々の事物に備わっていて、他から区別させている固有の性質	イ	敬遠 うわべは敬いながら、実際は嫌がって近寄らないこと。
ウ	均一 金額や数量などがすべて同一であること。		

a	せつかく (解答例)長い時間をかけて、せつかく海まで来たのだから、おいしい魚を買っていこうと私は考えた。
b	至るまで (解答例)私は、私立の中学校に合格したので、鉛筆からパソコンに至るまで、あらゆる学習用品を新しくした。

問3	問2	問1	四
エ	知識が時間の経過とともに忘れられるということ。	ア	



問 12	問 11	問 10	問 9	問 8	問 7	問 6	問 5	問 4
<p>解答例)</p> <p>私は壊れたら買い換ええるという現代の考え方に反対です。なぜなら、壊れたら買い換ええることを繰り返すと、資源を無駄に使うこととなり、環境の破壊につながるからです。(78字)</p> <p>私は壊れたら買い換ええるという現代の考え方に賛成です。なぜなら、次々と新しいものを作っていくかなければ、経済が発展せず、豊かな社会に成長していかないからです。(77字)</p>	<p>適材適所</p>	<p>できたものは丈夫で長持ちし、美しく見える。</p>	<p>まわりの木よりも多くの日の光を受け、生き残ろうとする競争。</p>	<p>丘の上の一本木は激しい風に対抗して力を入れるため幹がひずみ、材にしたときにねじれたり割れたりしてしまうから。</p>	<p>木とつきあってきた人たちが持っていた知恵、自然とのつきあい方。</p>	<p>1 ○</p> <p>2 ×</p> <p>3 ○</p> <p>4 ×</p> <p>5 ○</p>	<p>人間は困難の少ない環境にあつて心も体も順調に成長するが、困難を克服しながら生きてきた人の方がより深く成長する場合があるという点。</p>	<p>一本一本個性のある木を同一のものとして扱い、強い個性を持ったものは効率を高めるために障害物として排除する。</p>